



学校だより

学校教育目標

ふるさとの魅力を発見・発信し、次代を生き抜く児童生徒の育成

唐津市立加唐小中学校

第17号

令和2年12月1日発行

文責 校長 宮地 浩幸

ボランティアの精神

11月11日(水)にほんわかタイムを行いました。井手瑞樹先生のお話でした。内容はボランティアの精神についてです。今年も日本列島は多くの自然災害に悩まされました。新型コロナウイルスの影響もあって、例年のようにはいかない場面もありましたが、多くのボランティアの方々が被災地の復興に協力をされました。「困っているときはお互い様」という日本人の根底にある他者尊重の気持ちが、多くの人のたちの行動に反映されていると思います。

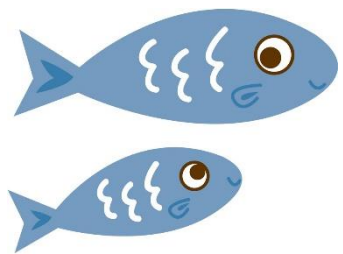
そのような状況を受けてのお話で、井手先生がまだ若い時に(40年位前とおっしゃっていました)、一人の女子生徒が、あるおばあさんに献身的なお世話をしていたのだけれども、その方からは不満の言葉ばかりが発せられていたそうです。このような状況を見ていると理不尽でとてもかわいそうだと思っていた時、最後にその女の子がおばあさんに言った言葉は「お世話をさせていただいてありがとうございます。」でした。それを聞いて井手先生は、すごく感銘されたとともに「ボランティアの精神とは、見返りやお礼を期待せず一生懸命に尽くすこと」と改めて認識されたそうです。



釣り大会

11月12日(木)の午後に、恒例の釣り大会を行いました。天気にも恵まれて、大変有意義な時間を過ごせたと思います。ところで、島での典型的な自然体験は誰でも「釣り」と答えることは間違いないと思います。先生方も加唐小中学校に赴任して、釣りを楽しんでおられる方も少なくありません。この日、子ども達は小さいけれども多くの魚を釣り上げることができました。餌を投げ入れると小さな魚がたくさん寄ってきます。それを見ているだけで、自然の豊かさを肌で感じることができました。もちろん多くの魚を釣り上げることで、釣りをしている充実感もあり、心が高鳴るのが分かります。子ども達もとても楽しそうでした。そしてできるだけ大きな魚を釣りたいと目的意識が生まれ、試行錯誤するさまが見えたことも微笑ましく思えました。

釣りのような自然体験を通じて、それぞれが学ぶことや感じることは様々あると思いますが、加唐島での自然体験は、絶対に本物であり、子ども達の人生の一助になることは間違いないと思います。



薬物乱用防止教室

11月12日(木)4校時に小学6年生以上が薬物乱用防止教室を受講しました。初めに、薬物乱用の定義として、決められたルールに基づいて、薬を使用しなければすべて薬物乱用になるということでした。例えば、処方された薬であっても決められた量より多く飲用したり、自分が処方された薬を症状が同じだと判断し他の人に譲ったりするのも薬物乱用になるわけです。まずは、「薬は決められたルールに基づいて使用しましょう。」という趣旨を話してもらいました。そして、覚せい剤と呼ばれるものの恐ろしさを具体的に教えてもらいました。

それは、人間の脳を刺激し、考えることを妨げ、五感を奪い、運動機能を低下させます。1回でも使用すれば、自分の意志で止めることができないと強調されました。覚せい剤は、依存症をおこし、耐性をつけるそうです。それ故、やめられず、服用する量も多くなるそうです。また、始めるきっかけとしては、好奇心、仲間意識(誘われたら断れなかった)、悩みからの逃避が多いそうです。だから「知らない人に誘われたらきっぱり断る勇氣を持って欲しい。あいまいな態度は相手に付け入るスキを作ってしまう。」と話されました。覚せい剤の乱用は、気持ちの問題ではなく依存症という病気に由来するものです。それは自分では認識できないものなので、専門機関に相談するしかないと付け加えられました。

その後、子ども達は誘われてもきっぱり断るロールプレイングを行いました。最後にお礼の言葉として「薬物の怖さは、自分や周りを傷つける。誘われたら自分の意志をもってきっぱり断る」と子ども達は約束してくれました。



愛鳥モデル事業

11月17日(火)の午後に、日本野鳥の会から2名の先生をお招きして、愛鳥モデル事業を行いました。初めに、一般的な鳥についてのお話を伺った後、巣箱づくりを行いました。愛鳥モデル事業は自然保護の観点から行われます。県内では、本校を含めて2校で実施されています。佐賀県で最も野鳥の種類が多く観測するのに適しているのは、東与賀の干潟だそうです。加唐島も自然豊かで野鳥の観察にはとても適している場所であり、この島にも珍しい野鳥は多く生息するということでした。その典型がカラスバトだそうです。島に赴任してきて、春は鶯がよく鳴いているのを聞きました。また、大きな猛禽類が上空を飛んでいるのは気が付いていました。その鳴き声からトビであることは想像がつかいましたが、カラスバトを確信してみたことがありません。次回は野外観察を予定していますので、それを見ることを楽しみにしています。



ところで、このような事業は理科教育の観点からとても有意義です。「一般的に鳥の特徴は」という話がありました。これは中学生の理科の授業で学習します。先生方のお話の中で、中学生にとっては既習の内容を実際に活用する場面を得たこととなります。教科書の中のことがよりリアルに体験できるわけです。また、作った巣箱に営巣の痕跡があれば、子ども達の感動体験になることでしょう。まさに活きた学習をしているわけです。

